

6月1日（日）主日礼拝レジュメ ペテロの手紙第一4章9節

互いに熱心に愛し合う＝互いにもてなし合う

もてなすとは：旅をしているクリスチャンをもてなす。例：巡回伝道兄弟姉妹たちをもてなす。集まりの中での食事の準備や部屋の準備

新約聖書の中でのもてなしが5回用いられている。（ローマ12：13、第一テモテ3：2、テトス1：8、ヘブル13：2、ペテロ第一4：9）

もてなすことの恵み お互いの良き交わり、他教会との結びつきが強められる。巡回伝道者たちをもてなすことで、様々な情報を得て互いに励まされたり、ともに祈る。

① ヨハネの手紙第三3節に「兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいることを証ししてくれるので、私は大いに喜んでいます。実際、あなたは真理のうちに歩んでいます。」

さまざまな人たちが訪れてガイオのことを語ることで、彼の信仰のことを聞き大いに励まされた。

もてなしにおける犠牲もある。金銭的に余裕のない人たちや激しい迫害を受けていた人たちもいたのではないか。しかし、様々な境遇の人たちがいたことをペテロ自身が知りながら、その中で互いにもてなし合いなさいと言ひ、不平を言わないでとつけ加えている。「不平を言わないでという言葉は繰り返される愚痴に言及するのに使用され、しばしば他者に語られて反逆をかき立てる結果をもたらす」（ウエイン・グルーデム）

神の民の中で不平、つぶやきというものは決して不平やつぶやきを口にすその人個人にとどまらず、それが広がっていけば、それが神の民全体の神への反逆、神が立てられた器への反逆になる。

不平やつぶやきが出る時とは：喜べない時、感謝できない時、不信仰になった時。

「互いにもてなし合いなさい」との言葉には、もてなすべき人ともてなさなくてもいい人などという区別はないし、何か事情を考慮してもてなすことからの免除を与えるようなことはない。むしろ愛をもって、愛に基づいて、愛に根ざして、愛を動機としてもてなし合いなさいと言われている。

聖書で言うもてなしとは、愛の交わり。かたちを変えた愛、愛が目に見えるかたちで現れるもの。他の兄弟姉妹の必要に気づく中で、どんな小さなことであっても何かをするなら、それがすなわちもてなしになりうる。

② マタイの福音書25章21～40節「人の子は、その栄光を帯びてすべての御使いたちを伴って来るとき、その栄光の座に着きます。そして、すべての国の人々が御前に集められます。人の子は、羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、羊を自分の右に、やぎを左に置きます。それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された者たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたのでしょうか。いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたのでしょうか。いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お尋ねしたのでしょうか。』すると王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

愛から出たことはすべて忘れられ、イエス様を愛する愛からもてなす。

このような愛の交わりの中から、決して形骸化することのないともに礼拝に生きる神の民として歩む。